

## 「対人関係に関すること」

### 1 活動名「友達の写真を選ぼう」

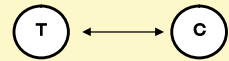
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

朝の会などで、友達の名前を呼んで出席を取る場面等で、友達への関心が低く、その他の場面でも、友達の存在を意識することが少ないため、友達を意識する活動を行う。

#### この授業で学習させたい目標

○友達の写真を選ぶことができる。

#### 指導形態—I (基本の学習形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
①教師が置いた写真を見る。	・児童の前に、友達の写真と児童が見たことがない人の写真を置く。
②〇〇さんの写真を取って、教員に渡す。	・「〇〇さんちょうだい」といって、友達の写真を取らせる。 ・正しい写真が取れたら、「そう、〇〇さんだね。よくできたね。」と褒める。 ・間違った写真を取ったり、何もしなかったりしたら、「〇〇さんだよ」と言って正しい写真を取らせる。
	※ できたら ・2人の友達から選ぶ ・3人の友達から選ぶ ・4人の友達から選ぶ と課題の難易度を上げていく。

社会性の学習の視点  
身近な人の理解



#### <授業の成果>

指導の始めは、間違って写真を取ることもあったが、少しずつ正しい写真が取れるようになり、1学期の終わりには、クラス全員の写真を正しく選ぶことができた。「社会性の学習」の時間以外の場面でも、友達の名前で、友達を確認することができるようになってきた。

# 「対人関係に関すること」

## 2 活動名「てをあわせましょう」

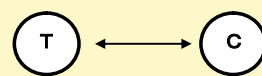
### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

朝の会や帰りの会で、教師と視線を合わせて挨拶ができなかったり、体育の時間に模倣ができないなど、教師が提示した課題の理解が難しい状況が見られる。まずは、基礎的な他者への意識を高めたい。

### この授業で学習させたい目標

- 教師の手の動きを見る。
- 手袋の色を見て、同じ色の手を合わせる。

### 指導形態—I (基本の学習形態)



### <主な活動>

児童の学習	支援
①右手(黄)と左手(青)の手袋をはめる。 ②アクリルボードをはさんで教師と対面して座る。 ③「手をたたきましょう」の歌に合わせてリズム打ちをする。 ④「トントンパ」の「パ」に合わせて、教師が手を置いた場所を見て、手のひらを合わせる。  ☆置いた手を「パ」「パ」「パ」とずらして追視することや、グーやチョキなど細かい指の動きに応用することも可能。	<ul style="list-style-type: none"><li>・「トントンパ」の掛け声に合わせて教師の手の動きを見る。 5秒待つて 見ていなければ・・・ 1 ○○さんなど呼びかけ 2 1の支援に加えて「見て」といった言語指示 3 2の支援に加えて指さし 4 教師が児童の側から「ここだよ」とボードに触れる。</li><li>・手袋の色を見て、同じ色の手を合わせる。 5秒待つて 合わせられなければ・・・ 1 ○○さんなど呼びかけ 2 1の支援に加えて「青だよ」といった言語指示 3 2の支援に加えて指さし 4 教師が児童の側から「青だよ」とボードに触れる。 5 「青だよ」と児童の手を持って合わせるところまで支援する。</li></ul>

### 社会性の学習の視点 身近な人の理解



### <授業の成果>

アクリルボードに手を合わせることで、活動の結果が分かりやすくなり、集中して教員の動きに合わせてすることができてきた。他の場面でも、教師の動きに注目することができてきた。

## 「対人関係に関すること」

### 3 活動名「しゃぼん玉であそぼう」

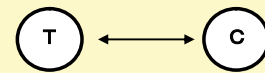
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

やりたい気持ちを表出することや自分の順番まで待つことが難しいことが多いため、簡単な言葉でのやり取りの経験をさせる。

#### この授業で学習させたい目標

- 「(しゃぼんだま) かして(ください)」「ありがとう」の簡単な言葉でのやり取りの経験を積む。
- 順番や交代を理解して活動に取り組む。

#### 指導形態—I (基本の学習形態)

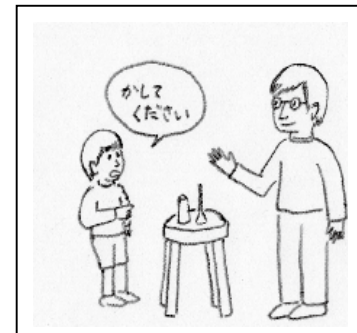


#### <主な活動>

児童の活動	支援
<p>※ 2人の児童で、交代でシャボン玉を吹く。</p> <p>①児童Aはシャボン玉を持つ。</p> <p>②児童Aは、一回吹く。</p> <p>③児童Bは、児童Aがストローを置いた時に 「かしてください」と言う。</p> <p>④児童Aは「どうぞ」と言って、 場所を児童Bに譲る。</p> <p>※繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童Aがストローを置いて児童Bが「かしてください」と言えたら ④へ 5秒待つ、言えないなら<ol style="list-style-type: none"><li>1 ○○さんなど呼びかけ</li><li>2 1の支援に加えて「かしてください」といった言語指示</li><li>3 2の支援に加えて「かしてください」の文字カード</li><li>4 教師が児童の側から「かして」と言う。</li></ol></li><li>・児童Aが、「どうぞ」と言えたら交代 5秒待つ、言えないなら<ol style="list-style-type: none"><li>1 ○○さんなど呼びかけ</li><li>2 1の支援に加えて「どうぞ」といった言語指示</li><li>3 2の支援に加えて「どうぞ」の文字カード</li><li>4 教師が児童の側から「どうぞ」と言う。</li></ol></li></ul>

#### 社会性の学習の視点

他の人や状況の理解と行動



#### <授業の成果>

自分の順番を意識して待つことができるようになった。教師の支援がなくても、「しゃぼんだまかしてください」と言えるようになった。

## 「対人関係に関すること」

### 4 活動名「手遊びをしよう」

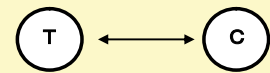
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

学級や学年で役割のある活動をするときに、自分の番を理解できなかつたり、役割がわからなかつたりすることが多いので、役割を理解することが大切に指導を行う。

#### この授業で学習させたい目標

○絵カードを使ってやりたい手遊びを選択し、教師に伝える。

#### 指導形態—I (基本の学習形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
※「いっぼんばしこちょこちょ」と「パン屋さん」の手遊びから、やりたい手遊びを選択する。  ①やりたい絵カードを教師に渡す。  ※学習が成り立つようになったら児童と教師の役割を交換する。	・児童が2枚の絵カードの中から手遊びのカードを選択して教師に手渡すようにガイドする。  ・「〇〇だね」と言って、手渡された絵カードの遊びする。

社会性の学習の視点  
他の人や状況の理解と行動



#### <授業の成果>

手遊びを期待し、やりとりカードを渡すことができるようになってきた。役割の交代を理解できてきた。

## 「対人関係に関すること」

### 5 活動名「おふねはぎっちらこ」

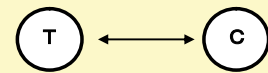
#### 学習上又は生活上の困難の視点

促されれば教師や友達など特定の人との関わりはできるが、自発的に関わることに課題があるので、道具を介して相手を意識させる。また、簡単なルールの中で一緒に活動する。

#### この授業で学習させたい目標

- 身近な大人や友達の存在を意識し、遊びや活動、物を介して関わる。
- 遊びの中で、要求の仕方、順番、交代等のルールを知り、教師や友達と一緒に活動する。

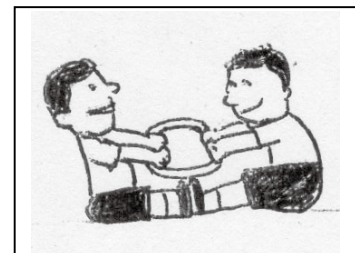
#### 指導形態—I (基本の学習形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
①一緒にやりたい友達や教師の名前を呼んだり、顔写真カードで相手を選択したりする。	・名前の呼び方や写真カードの取り上げ方を示すなどして、やり方のモデルを見せる。
②対面して座り、輪を一緒に持つ。	
③「おふねはぎっちらこ」の歌に合わせて、交互に身体を前後に動かす。	・歌と相手の動きに同調して動けるように身体介助を行う。
④指定されたかごに道具を戻し、椅子に座る。	・指さしや写真カードで知らせる。できたら言葉や表情で褒め、認める。

社会性の学習の視点  
身近な人の理解



#### <授業の成果>

どの友達の組み合わせになっても、相手の動きに合わせて活動できるようになった。  
呼名への応答が定着しつつあり、結果発表に期待して聞き入る様子が見られるようになった。

## 「対人関係に関すること」

### 6 活動名「教師の指差しに注目しよう」

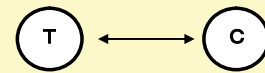
#### 学習上又は生活上の困難の視点

大人からの指示を受け入れることが難しく、簡単な指示に注目することも難しいため、まず、指差しに注目することを指導し、学習しやすく指導する。

#### この授業で学習させたい目標

○教師の指差したところに注目することができる。

#### 指導形態— I (基本の学習形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
①「ちょうだい」の手を教師に向ける。	・児童が「ちょうだい」ができるまで待つ。 ・児童にペグを渡す。児童が好きなところへペグを指さないように注意する。
②教師からペグを受け取る。	
③教師の指差しの位置を見る。	・「ここだよ」といってペグを指すべきところを指差しする。 ・指差したところにペグを指したら、「よくできたねー」と褒める。 ・指差し以外のところにさしたら、「違うよ」といって、児童の手を持って、正しいところへ指す。
④指差しているところにペグを指す。 10回程度繰り返す。	

#### 社会性の学習の視点

他の人や状況の理解と行動

#### <支援の方法> 指差し

児童が、指差しに注目しやすいように、ゆっくりとはっきりと指差しをする。

- ※ トントンしない。
- ※ 振らない

#### <授業の成果>

指導の当初は、ペグを渡されるとすぐに自分の指したいところにペグを指してしまっていたが、指導が進むにつれて、教師の指差しによる指示を待ってから、ペグをさせるようになってきた。